

## 2. 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

#### 2-1-1 植生

常呂川流域の植生は日本の9植物区系のうちで「えぞむつ地域」に入る。植生と関係の深い地形は大まかに言って南北に走る3列の山地と、その内側に同じく南北に走る2列の平地からなっている。広大な地域をもち、高い山脈や東部の台地、中央部には残丘植物があり、常呂川とその支流、さらにはこれに流れ込む小川、溪流を作る流域平地の植物、低平地な湿地などの複雑な地形は、常呂川流域の多彩な植生を形成している。

常呂川流域と石狩川との分水界をなす武華山～三国山～勝北峠に連なる稜線部は、ミヤマハンノキ、タカネナナカマド、ウコンウツギ等の亜高山性低木林、あるいはササ群落等の低い植物群落が分布しており、高山植物は特に風衝条件が厳しいところを中心に局部的に分布している。亜高山性低木林をとりまくようにダケカンバ林が分布しているが、純林状のダケカンバ林は範囲が限られており、下部に続くエゾマツを主体とした針葉樹林内にも混生し、場所によっては針広混交林の林相を示すところもある。

標高700～1,400m前後の区域にはかなりの自然林が残存し、エゾマツ、トドマツが優占する針葉樹純林状の林相を示すところが多い。針葉樹自然林の構成種は、エゾマツ、トドマツの高木層の下にナナカマド、オガラバナ、ヒロハツリバナなどの低灌木が散在する程度である。

中流部から下流部では海拔高度が低くなるにしたがって、ミズナラ、エゾイタヤ、シナノキ、オヒョウ、ハルニレ等の落葉広葉樹が混生する割合が大きくなり、針広混交林の林相を示すようになる。また、海拔高が300～400mとなれば、落葉広葉樹の割合がさらに高くなり、広葉樹自然林の相観を示すところもでてくる。

また、置戸町の常呂川源流域近くに位置する常元針葉樹林および常呂川河口からサロマ湖の砂州にいたる海岸部に位置する佐呂間湖常呂カシワ林は、環境庁の選定した特定植物群に属している。選定基準としては原生林もしくはそれに近い自然林となっている。



写真 2-1 トドマツ



写真 2-2 常呂のカシワ林



## 2-1-2 哺乳類

流域の山間部には、自然林が広く残されている。また、集水域稜線を挟んだ南側には石狩川源流域や大雪山系の山々が連なっており、哺乳類の生息環境としては恵まれた地域である。このような環境には森林性、もしくは深山性のエゾクロテン、エゾモモンガ、さらには大型獣のヒグマ、エゾシカなどを含む多くの種が生息する。また、武華山周辺の高山帯には、ナキウサギの生息も知られている。

中流部では平野部の農耕地が河川周辺に広がり、流路沿いにヤナギなどの河畔林が分布するほか、人工林の多い樹林部が所々に見られる。生息する種はイタチ、シマリスなどの小・中型獣が主体となり、樹林部でエゾユキウサギなどの森林性の種も出現する。

しかし、市街地を通過する部分では極端に生息種が少なくなる。下流部は中流部とほぼ同様の生息環境で、生息する種は中・小型獣が主体となっている。

なお、カラフトアカネズミが希少種(レッドデータブック)に、エゾクロテンが情報不足(レッドデータリスト)、エゾモモンガが主要野生動物(自然環境保全調査)となっている。



写真 2-3 エゾシカ



写真 2-4 ナキウサギ



### 2-1-3 鳥類

上流部は自然林が広く分布し、大雪山系に連なる地域である。高山帯ではホシガラス、ピンズイ等、森林帯ではハシブトガラ、キビタキ、エゾライチョウ、エナガ、ハギマシコ、コルリ、オオアカゲラ等が生息する。

平野部では農耕地、ヤナギを主とする河畔林、人工林が分布し、比較的開けた環境となっている。生息する種は疎林性種のほかに、河川性の種が生息する。河口部付近の海岸部は、水鳥主体の生息環境となり、オオハクチョウ、カルガモ、オオセグロカモメ等が見られる。

天然記念物であるオジロワシ、オオワシ、クマゲラ、エゾライチョウや環境省レッドデータブック掲載種のおシドリ等が確認されている。



写真 2-5 オジロワシ



写真 2-6 エゾライチョウ



写真 2-7 クマゲラ

### 2-1-4 両生類・爬虫類

常呂川で確認されている両生類はアマガエル、エゾアカガエル、ニホンアマガエルなどである。代表的な出現種としては、エゾアカガエルが挙げられ、特に湿地性の植物が分布する箇所において多く確認されている。

爬虫類ではシマヘビが多く確認されており、この他にはアオダイショウなどが確認されている。



写真 2-8 エゾアカガエル

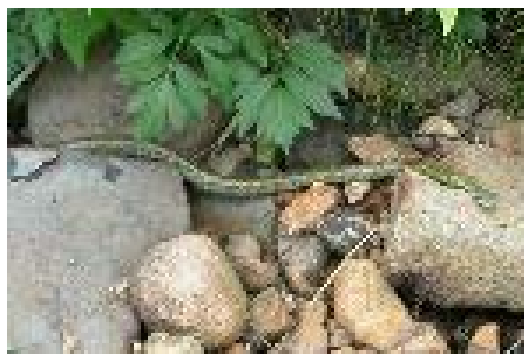


写真 2-9 アオダイショウ

### 2-1-5 魚類

常呂川では、下流域においてワカサギ、エゾウグイ、ウグイ、アシシロハゼ、ヌマガレイ等が確認され、中流域にはフクドジョウ、エゾウグイ、イバラトミヨ等、上流域にはサクラマス（ヤマメ）、シベリアヤツメ、ヤチウグイ、エゾイワナ等が分布している。

特定種では、シベリアヤツメ、ヤチウグイ、エゾウグイ、シラウオ、サクラマス（ヤマメ）、イトヨ、キタノトミヨ、ハナカジカ、ルリヨシノボリ等が確認されている。

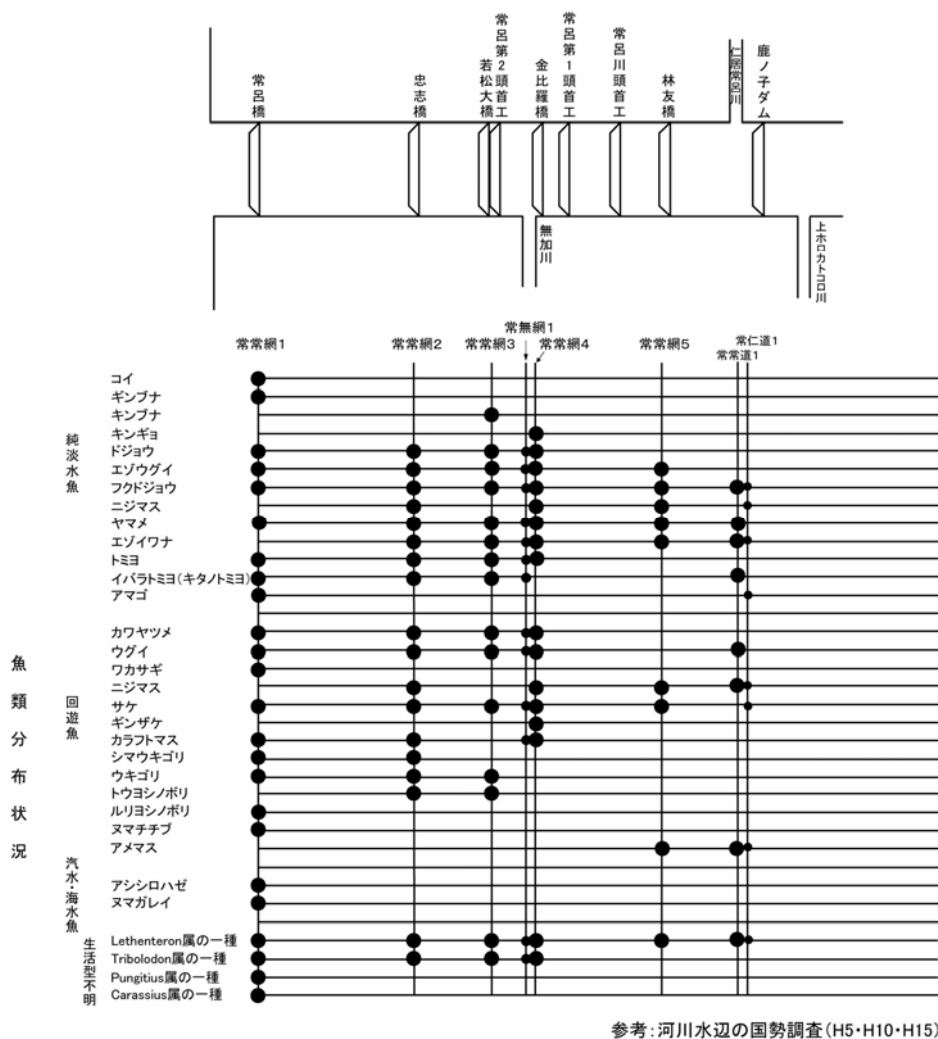


図 2-1 常呂川における魚類流程分布図



写真 2-10 ハナカジカ



写真 2-11 エゾウグイ



写真 2-12 ヤマメ

## 2-1-6 昆虫類

山岳地域、山麓地域の森林では、森林性昆虫が分布している。

また、河道内の状況は、上流域では森林を主体とした生息環境を呈しており、森林性の昆虫類、渓流性のトンボ類が生息している。平野部では農耕地として利用されている地域のほかに、草原、ヤナギ類などの河畔林からなる生息環境を呈しており、草原性の昆虫が分布している。下流域では小規模なヤナギ低木からなる河畔林が主体となっており、草原性の生息環境を呈している。

常呂川流域の昆虫類のうち特に貴重なものは、マンシュウアオモンイトトンボ及び、カラフトヨツスジハナカミキリである。マンシュウアオモンイトトンボは北見付近のほか、紋別付近、網走のリヤウシ湖、利尻島の姫沼の4地点で発見されている珍種であり、これまで採集された個体数も少ない。カラフトヨツスジハナカミキリは、国内では北海道特産種であり、道東地方に何箇所か分布するほかは、大雪山国立公園の層雲峡だけにしか存在が確認されていない。

シベチャケンモンも北海道の特産種で、既産地は道東方面に片寄っている。また、ヒメギフチョウは北見、能取湖畔などに生息するとされているが、いずれも個体数は少ない。

このほかでは、チャマダラセセリ、カラフトタカネキマダラセセリ、ヒメウスバシロチョウ、エゾリンゴシジミ、ジョウザンシジミなどの貴重種が確認されている。

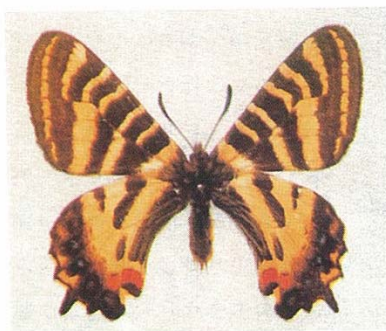


写真 2-13 ヒメギフチョウ



写真 2-14 エゾリンゴシジミ

## 2-2 河川及びその周辺の自然環境

### 源流～置戸市街地まで（源流部）

- ・ エゾマツ・トドマツ林等の針葉樹林が広く分布する。
- ・ フクドジョウ、ハナカジカなどの魚類が生息する。

### 置戸市街地～無加川合流点まで（上流部）

- ・ 河川周辺の山付き林には、ハルニレ、ミズナラが比較的多くみられ、高水敷には、オノエヤナギやエゾノキヌヤナギ等のヤナギ群落や、クサヨシ、ヨシ等の群落が分布している。
- ・ シベリアヤツメ、ヤチウグイ等が生息している。
- ・ 常呂川第一頭首工（63.8Km）までサケが遡上産卵する。サケの産卵床が多く分布する。

### （無加川合流点付近）

- ・ 無加川合流点付近の中の島公園には、ハルニレ大径木林が分布し、地域のシンボルになっている。
- ・ 湧水があり、サケの産卵床が多い。

### 無加川合流点～仁頃川合流点まで（中流部）

- ・ 忠志橋には、イワツバメの集団営巣地がみられる。
- ・ シベリアヤツメ、エゾウグイなどが生息し、サケの産卵床が点在する。
- ・ 高水敷は主に農地や公園、グラウンドとして利用されている。

### 仁頃川合流点～河口まで（下流部）

- ・ 発達したハルニレ林などが山月区間の所々にみられる。河岸には、オオイタドリ、クサヨシ等の草本や、オノエヤナギ・エゾノキヌヤナギ等の木本が繁茂している。
- ・ 河口左岸の砂丘地には、ハマニンニクが小群落を形成している。
- ・ 河口部は蛇行が多く、人工池、河跡湖等の止水域も多く分布しているため、オジロワシ等の渡り鳥の中継地や、水鳥の集団分布地になっている。
- ・ ワンドや瀬淵等、多様な環境がみられ、魚類等の良好な生息環境になっている。
- ・ 高水敷は主に農地利用されている。



## 2-3 特徴的な河川景観や文化財等

### 2-3-1 景観・景勝地

大雪山国立公園の境界部にあたる武華山(1,579m)は流域の最高峰であり、訪れる登山客も多く、高山植物の宝庫でもある。秋には針葉樹とのコントラストをなす紅葉が美しい。

常呂川本川上流には鹿ノ子ダムによってせき止められた人造湖おけと湖があり、変化に富む景観を形成している。鹿の子温泉や温根湯温泉等の自然に包まれた温泉地が点在している。

また、流域内では四季を通じて多彩なイベント等を開催し、住民が一体となって観光を盛り上げている。



鹿ノ子ダム



常呂遺跡



温根湯温泉



埋蔵文化財センター



温根湯のエゾムラサキツツジ



信善光寺「屯田兵人形」



表 2-1 主な観光対象

項目	市町村名	名称	内容
自然	北見市	美里洞窟	美里洞窟は石灰岩が雨水の浸食によってできた自然の洞窟で、壁面に鐘乳石が沈着した鐘乳洞遺跡。古代の人が狩猟のために一時的に使っていた住居といわれている。
	北見市	金刀比羅山	常呂市街地の南のある金刀比羅山。植樹された桜の木1,300本とつじの木500本が植えられおり、例年5月には、満開の桜が咲き、「桜まつり」が開催されるなど、北見近郊の桜の名所として市民に親しまれている。また、金刀比羅山の清流にヘイケホタルが生息しており、例年7月下旬には連日20匹程度のホタルが美しい光を放ち、夏の風物詩となっており、「ホタル鑑賞会」が開催されている。
	北見市(常呂町)	ところ遺跡の森	常呂川の河口からサロマ湖西岸にかけてのオホーツク海沿岸にの砂丘上に有る遺跡群で昭和49年に国指定の遺跡となり東大が今も調査研究を続けている。
	北見市(留辺蘂町)	つつじ公園	つつじ山の下に広がる豊かな公園。公園内にはサイクリングロードが整備されていてバードウォッチングや森林浴も楽しめる。芝生広場には3千本もの各種つつじが植樹されている。その他、全天候型のテニスコート、木製遊具などが配置され、キャンプ場もある。
	置戸町	風穴	春日の中山道有林内にあり、市街から約16km、常呂川と仁居常呂川に挟まれた岩谷台地に形成された中山の南斜面に広がる森林にある風穴地。ナキウサギが生息している。森林はトドマツ、アカエゾマツにイタヤカエデなどが混在する針広混交林を主体とし、所々には厚いマット状に発達したコケ類が多い、その上に針葉樹林が成立し林床には亜高山から高山性の植物が生育する風穴植生が見られる。その上に針葉樹林が成立し林床には亜高山から高山性の植物が生育する風穴植生が見られる。学術的価値があるとして北海道が学術自然保護地区として指定した。
温泉	北見市(留辺蘂町)	おんねゆ温泉	オホーツク地域で最大規模を誇る温泉。四季を通して約80万人が訪れる天然温泉郷。他にも滝湯温泉、ボン湯温泉とそれぞれの風情と泉質を持った温泉があるため、地域の人達にはもちろん湯治客にも人気のある温泉。
	北見市(留辺蘂町)	滝の湯温泉	名前の由来、アイヌ語ではシケレベツ地区になりますが、お湯が豊富なことから滝の湯の名がついたといわれている。泉質がとてつづつして、皆さんに愛されている温泉。
	北見市(留辺蘂町)	ボン湯温泉	名前の由来、ボン：オンネが大きいに対して小さいという意味のアイヌ語から名付けられている。火傷など皮膚の治療に効果があるとされ、近郷近在はもとより府県からも湯治客が訪れている。
	北見市(端野町)	のんたの湯	端野町のふるさと100年を記念して掘られたこの温泉は、疲労回復にとても効果のある温泉。
	置戸町	勝山温泉ゆうゆ	緑豊かな森と、常呂川の清流のすぐそばにある温泉。近くにはパークゴルフ場もあり家族連れでゆったりと過ごすことができる。
	訓子府町	温泉保養センター	純度100%の天然温泉。入浴後は、休憩室でのんびりくつろぐことができる。
湖	北見市	雷里湖	仁頃山(標高829m)の麓に広がる農業用ダム。雷里湖森林公園とキャンプ場があり、市民憩いの場。
	置戸町	鹿ノ子ダムおけと湖	原生林の中に生まれたおけと湖。鹿ノ子ダムの建設でできた湖を中心にして新しい観光開発が進められている。宿泊施設もある。
資料館	北見市	町立山の水族館・郷土館	北海道内に生息する約50種類の淡水魚を集めた全国でも珍しい水族館。巨大なイトウが50匹近い群れをなし悠然と泳ぐ。併設する温泉水族館では世界の珍しい熱帯魚もみることが出来る。また、郷土館では、開拓時代をしのばせる森林鉄道、村落などを再現したジオラマが見もの。
	北見市(留辺蘂町)	榎北きつね牧場	日本で唯一北きつねの放し飼いの牧場です。自然の林野をそのままに活かした遊歩道からは約100匹もの北きつねが元気に遊ぶ姿やエサをねだる姿など、かわいらしい光景が見られます。
	北見市(留辺蘂町)	北海道きつね村	世界のきつねにあえる：きつね村、北きつね・青きつね・赤きつね・銀きつね・白きつね十字きつねプラチナきつね・ブチきつね、などのかわいいしぐさが見られます。
競馬	北見市	ばんえい競馬(北見競馬場)	最高1トンもの鉄そりを馬にひかせ、全長200m、途中に2ヶ所の障害があるコースを競うばんえい競馬。開拓に活躍した農耕馬で農夫たちが楽しんでたお祭り競馬が発展したもので、40年以上の歴史を持つ。迫力あるレースを堪能できる。
道の駅	北見市	道の駅・おんねゆ温泉	平成7年8月3日に指定登録を受け、大型駐車場と快適なトイレを完備した北海道24番目の道の駅。そのほか、からくり王国の売店、リラックスガーデン、花菖蒲園があり、からくりハト時計塔「果夢林」と町立山の水族館・郷土館に隣接している。
体験学習	置戸町	森林体験交流センター(置戸町)	おけと湖周辺の自然とのふれあいをサポートしてくれる専属のインストラクターがバードウォッチング、森林観察、山菜・キノコ狩りなどの指導をしてくれる。森や樹木の関りをテーマに各種行事もやっている。木の玩具を通じた木の学習体験や、木に関するQ&A情報セッションもある。 主な行事 5月：山菜教室、バードウォッチング。6月：野の花観察会。9月：きのこ教室

表 2-2 主な観光対象

項目	市町村名	開催月	名称	内容
イベント	北見市	5月	オホーツク木のフェスティバル	毎年初夏に行われるのが、オホーツク「木」のフェスティバル。オホーツク圏の根幹産業である林業の振興を目指し、「木」の素材が持つ温もり、優しさを生活に積極的に取り入れてもらうための木製品が多数出品される。
	北見市	6月	でっかいどうオホーツクマーチ	「でっかい自然・ふれあいウォーク」をテーマにオホーツクの自然と味覚にふれあい、友情の輪を広げる事を目的とした歩く大会です。2つの大会からなり全体で4日間の日程で行います。そのうち2日間は「ハッカの大地北見ツーデーマーチ」という北見～端野町を歩く6コースが用意されています。日本マーチングリーグ認定大会となっています。
	北見市	7月	北見ぼんちまつり	7月中旬、短い夏を惜しむかのような熱気あふれるのが「北見ぼんちまつり」。市民がゆかた姿で中心街を練り歩く「舞踊パレード」を皮切りに「花火大会」、そして200mの綱をフンドシ姿の若者が引き合う「屯田大綱引き」と北の夏はおおいに盛り上がりがあります。
	北見市	7月	香りゃんせフェスティバル	7月には色とりどりの花が咲き誇る「香りゃんせフェスティバル」が開催されます。香り体験コーナー、ハーブお楽しみコーナー等各種イベントが盛りだくさん。ハーブウェディングでは幸せが会場一杯に広がる。
	北見市	8月	北見市ラグビーフェスティバル	モイワスポーツワールドをはじめ、東陵運動公園、河川敷グラウンドと、オール芝の恵まれたスポーツ施設を背景に、毎年夏になると全国からスポーツマン達が強化合宿のために来北します。明治大学をはじめとした関東の大学や実業団など、日本を代表するラグビーチームが爽やかな青空のもとで練習に汗を流します。そして8月に、各チームが東陵運動公園ラグビー場に集まり、北見ラグビーフェスティバルが開催されます。
	北見市	10月	北見菊まつり	毎年、10月中旬から11月上旬まで開催されるのが全道一の歴史と規模を誇る「北見菊まつり」。丹精こめた菊の美しさが訪れる人々の目を奪い、NHKの大河ドラマを題材とした菊人形の絵巻に酔いしれる。秋の陽差しに美しく1万株を超える花に道内各地から大勢の人が訪れる。
	北見市	10月	オクトーバーフェスティバル	国内地ビールの発祥地北見で、道内や海外のビールメーカーが自慢のビールを出品する。毎年4日～1週間程の日程で連日ビール好きで賑わっており、中には毎日のように参加している方も。金銘柄を飲み比べてみたくなる癖になるイベント。
	北見市	2月	北見冬まつり	「冬は友だち」をテーマに市民参加の「北見冬まつり」が毎年2月上旬に開催。大小様々な氷雪像がプリズム光に浮かび上がる夜の会場はファンタジックなムードに包まれる。また、ギネスブックに挑戦する3万個のアイスクリームも素晴らしい。北見冬まつりは冬の季節に美しいアクセントを添えてくれる。
	北見市	2月	北見厳寒の焼き肉まつり	2月には「厳寒の焼き肉まつり」が北見芸術文化ホール駐車場を会場に開催されます。これは「北見の焼肉文化をPRしよう」と転勤族の皆さんの発案から始まったもの。-10度前後の夜空の下、著の手を休めることなく、肉を味わう市民で盛り上がりがあります。※「北見厳寒の焼き肉まつり」は「北見冬まつり」の前日に行われます。
	北見市(常呂町)	8月	ところふるさとまつり	2日間行われる盆踊りと2日目に行われる「仮装盆踊り」。常呂川の川辺で打ち上げられる花火大会も。
	北見市(常呂町)	2月上旬	ところ雪んこまつり	魚の輪投げ、じゃんけん大会などのイベントや、出店、建物内では「ミニ科学の祭典」などの体験学習も
	北見市(常呂町)	6月	サロマ湖100キロウルトラマラソン	湧別町からサロマ湖を一周して常呂町にゴールする鉄人レース、日本陸上競技連盟の公認コースでもあり、国内ウルトラマラソンの中でも最大級の大会。100キロレースのほか、佐呂間町を発する50キロのレースも同時に行なわれている。
北見市(常呂町)	7月	オホーツクインターナショナルサイクリング	雄武町から斜里町までのオホーツク海沿岸212キロを2日間かけて走るサイクリング大会。順位を争うものではなく、風景や参加者の交流などを楽しみながら完走するのが目的です。毎回、子どもからお年寄りまで幅広い年代から約1500人の参加があります。	
北見市(留辺瀨町)	5月上旬	おんね湯温泉つつじ祭り	28万本のつつじの咲く「つつじ山」を舞台に5月上旬に開催されるおんね湯温泉の春祭り。	
北見市(留辺瀨町)	8月	おんね湯温泉祭り	神輿を担いで男女が練り歩く「みこ川渡御」がメインイベントになっているおんね湯温泉の夏祭り(8月第1土・日)。あわせて花火大会が開かれ、川面に浮かび上がる花火は風情たっぷりです。	
北見市(留辺瀨町)	8月	るべし夏祭り	毎年8月中旬に、仲町中央公園などで開催されます。	
北見市(端野町)	8月	太陽まつり	メビウススキー場を会場として毎年8月に行われている。メインイベントは『ウォーターロデオでのんたの湯』です。他にも端野豊稔太鼓、キャラクターショー、端野小・中学校による吹奏楽演奏、お楽しみ大抽選会が行われている。	
北見市(端野町)	9月	たんのカレーライスマラソン	1チームは4名で、4名それぞれが距離の異なるカレールーコース(5km)、肉コース(4km)、玉ねぎ・たんじんコース(3km)、いもコース(歩くコース2km)に分かれて、地元産の食材を取りに走ります。ゴールした後は、メンバーが受け取ってきた食材を使い、みんなでカレーをつくり、おいしく・楽しく食べるというもので、決してタイムや順位を競うレースではありません。	
訓子府町	5月下旬	芝ざくらまつり	町内の観光スポットでもあるレクリエーション公園で、66万株の芝ざくらをみながら、春の心地よい風の中、緑の芝生でジンギスカンを食べ、ビールを飲んでみませんか。	
訓子府町	7月	ふるさとまつり	町内の青年4団体が中心となりさまざまなイベントが繰り広げられ、町内外から集まった多くの方が祭りを満喫します。迫力ある踊りで観客を沸かせる「よさこい・くんねっぐ」、「行灯パレード」、「花火大会」や、「歌謡ステージ」(STVラジオ公開録音、2名の方がゲスト出演)、青年4団体によるイベント、JAアトラクション(焼肉コーナー、野菜やメロン等を販売)のほか、町内の婦人団体や商工会会員の売店コーナーがある。	
訓子府町	2月	さむさむまつり	町内の青年4団体が違った雪像を中心に、さまざまなイベントが行われる。アトラクションや、甘酒の無料提供、雪球のかわりにゴムボールを使用した「雪合戦」、キャラクターショーなどがある。	
置戸町	7月	人間ばん馬	その昔、冬山道材で丸太を満載したバチゾリを引く馬の列が何キロメートルも連なっていた町の歴史を取り入れた「人間ばん馬」。500kgの丸太が積まれた鼓のソリを、5人または7人で障害2か所を含む80mの距離を引っ張り競い合う全国で唯一の大会です。	
置戸町	9月	もっと馬力だすべえ祭	食べることで遊ぶことが、馬力だすべえ祭のモットーです。各種イベントや出店屋台がある。	
置戸町	1月	おけと湖水釣り大会	鹿ノ子ダム湖でのワカサギ釣り、水中イキスでのニジマス釣り大会。	
置戸町	7月	おけと湖水まつり	鹿ノ子ダム見学会、釣り大会、カヌー体験教室、ゲームコーナー	
置戸町	7月	おけと夏まつり	前夜祭と本祭があり、前夜祭ではよさこいや焼肉屋台、本祭では「おけと人間ばん馬大会」やモデルを囲んでの「フォトコンテスト」アムレスリング大会などもある。	
置戸町	9月	びーひら祭り	置戸町大通り商店街が企画している、秋祭り。夏もすずに終り、紅葉も色づきはじめる頃、獅子舞の音が鳴り響くなか行われている楽しいお祭りです。以前は前夜祭(よみや)もやっていたのですが、今では1日にイベントを集約して、楽しい企画で地元の子供達の喜ぶイベントとなっている。	
置戸町	2月	おけと子ども冬まつり	多数のイベントやアトラクションがある子供が主役のまつり。雪合戦や宝探しなど	

## 2-3-2 文化財

常呂川流域には歴史的に重要な文化財、史跡は表 2-3に示すとおり国指定で 2 件、道指定が 2 件(内 1 件は北海道遺産)、市指定が 11 件(内 1 件は北海道遺産)である。

表 2-3 指定文化財

指定の種類	名称	所在地 指定年月日	概要
国	常呂遺跡	北見市 (常呂町) S49. 3.12	我が国では他に例をみない竪穴群であり、縄文文化晩期、続縄文文化期、擦文文化期及び擦文文化後期の墓坑の可能性が強く日本の先史文化を解明する貴重なものである。
	浜松千鳥図鐔銘安親	北見市 S30. 2. 2	江戸時代の名工・土屋安親の作で、形状は丸型、地は素銅石目地で表面に松樹の色絵と金摺付象嵌を施した十七羽の千鳥を配した図柄の鐔(つば)です。表の茎孔に「安親」の銘が刻まれ、彼の作例中でもその技量を最高に示す銘鐔です。
道	温根湯エゾムラサキツツジ群落	北見市 (留辺蘂町) S32. 1.29	温泉街の裏山にあたる「つつじ山」は全国随一のスケールを誇り、北海道の天然記念物にも指定されてる。5月上旬から中旬には、7万株、28万本ものツツジが満開となり、毎年温根湯つつじまつりも行われる。
市 北海道遺産	ピアソン記念館(大正3年建築)	北見市 H8.7.8	洋風建築として貴重な歴史的建造物。ピアソン牧師夫妻遺品等の展示施設として活用。
市	屯田兵屋	北見市 S44.11.3	明治30年、31年。入植した各戸主に与えられた原型の屯田兵屋。内部に遺品、供与品なども展示。
	屯田兵人形	北見市 S44.11.3	屯田兵の偉業をたたえるために制作された75体の人形。屯田兵の風俗を知る貴重な資料である。(昭和7年~10年制作)
	ビーボディ・マルチニー銃	北見市 S45.6.6	1867年~1871年にかけてアメリカのプロビデンス兵器会社で製造され、屯田兵が使用していた。
	広郷遺跡の出土品	北見市 S62.4.15	先土器時代終末期に編年された遺跡で、広郷型細先刃石核を中心とした、石刃等の石器群。(約1万年前)
	中ノ島遺跡の出土遺物	北見市 S62.4.15	文中期からアイヌ期にかけての複合遺跡。特に縄文晩期末の石器群は貴重な資料である。(約2200年前)
	北進遺跡の出土遺物	北見市 S62.4.15	先土器時代終末期に編年された遺跡で、峠下型細石刃石核、彫器等で編成される石器群は重要。(約1万3千年前)
	ハッカ記念館	北見市 H8.7.8	昭和9年に北見薄荷工場事務所として建造される。昭和初期に世界一のハッカ生産地を誇った歴史を伝える関係資料展示施設として活用。
	鎖塚の区域	北見市 (端野町) H4.2.27	明治24年網走~旭川間の国道建設の際死亡し、路傍に埋められた300余りの囚人を弔うためにできた供養碑。
	旧野付牛屯田第四大隊第一中隊本部被服糧秣庫	北見市 (端野町) H4.2.27	明治29年に建設され、第一中愛の被服糧秣庫として使用されたもの。明治37年に一区が払い下げを受け現在地に移転し一部を回収し神社拝殿として使用。
緋牛内の大カシワ	北見市 (端野町) H8.4.26	樹齢300年以上もしくは350年以上の大カシワ。幹周は全国的にも有数であり、株立ちが一本のものでは全国一。町内では最大最古の樹木である。	
北海道遺産	ワッカノ小清水原生花園	北見市 (常呂町) ・小清水町	ワッカ原生花園は「龍宮街道」と呼ばれる日本最大の海岸草原。オホーツク海とサロマ湖に面し、春から秋には300種以上の草花が咲き誇る。車の乗り入れ規制や地元漁協による植林など先駆的な試みを展開する。小清水原生花園は一時期、花が衰退したが、平成5年より野焼きや球根の植栽、帰化植物の除去を行い、花のあふれる公園によみがえった後背部の濃沸湖沿いにあるヒオウギアヤメ群落とそこに放牧される馬の群れは特有の景観。



## 2-4 河川環境をとりまく背景

常呂川では、川の親しみを広げる催し、イベント等による利用等様々な活動が行われている。

常呂川の年間利用者数は約 49.0 万人(平成 12 年度河川水辺の国勢調査)であり、スポーツ(47%)と散策等(46%)でほとんどを占めている。

河川空間利用に関しては、公園やスポーツ施設等の住民が川とふれあえる空間や、川による地域間交流ができる場が整備される等により親水性の高い河川として使用されている。



香りゃんせ公園



ふるさと祭り(常呂川いかだ下り)



ラグビー場



パークゴルフ場



ソーラーカーレース



北見ぼんち祭り 花火大会(河川敷)

## 2-5 市民活動

常呂川流域では、流域内市町村で構成される常呂川治水促進期成会等が組織され、常呂川の治水効果の早期向上や河川整備について市民一体となって取り組んでいる。

流域の水防団は災害発生時には河川管理者と連携を図り、被害軽減に努めている。また、常呂川の環境を守るため、河川管理者と一緒に地域住民の方々のボランティアによる清掃活動を実施している。



おけと湖湖水まつり



常盤橋上流での調査風景(無加川)

## 2-6 自然公園等の指定状況

常呂川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、これらの保護、保全管理が図られている。常呂川水系における法令指定状況は以下の通りである。

### 2-6-1 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(平成14年度法律第88号)に基づく鳥獣保護区

9ヶ所で鳥獣保護区が設定されている。また、銃猟禁止区域は1ヶ所設定されている。

表 2-4 各種保護地域指定一覧

鳥獣保護区等区域						
保護区分	整理番号	市町村	鳥獣保護区名	区域	存続期間	備考
道	183	北見市留辺蘂町	滝の湯	常呂郡留辺蘂町に所在する国有林網走中部森林管理署1028林班のうちイからは、イ及びロの各小班の区域 [特保]常呂郡留辺蘂町に所在する国有林網走中部森林管理署1028林班の各小班の区域	平成15年3月31日 ～平成24年9月30日	森林鳥獣生息地 130ha [特保28ha]
	184	北見市留辺蘂町	紅葉山	常呂郡留辺蘂町に所在する網走森林計画区31林班から40林班まで、41林班1から6まで及び30から35までの各小班、42林班及び43林班の区域一円	昭和61年10月1日 ～平成18年9月30日	森林鳥獣生息地 1,157ha
	190	北見市常呂町	福山	常呂郡常呂町に所在する常呂町有林6林班1から8まで、10、13、16及び19から21までの各小班、7林班10、12から21まで、29及び30の各小班並びに8林班5及び59の各小班の区域一円	昭和61年10月1日 ～平成18年9月30日	森林鳥獣生息地 186ha
	192	北見市	若松	北見市若松に所在する道有林北見経営区74林班及び75林班の区域	平成4年10月16日 ～平成24年10月15日	森林鳥獣生息地 340ha
	193	訓子府町	協成	常呂郡訓子府町字開盛123番地の2、123番地の4、125番地の1から125番地の2まで、126番地の1の区域一円	昭和63年10月1日 ～平成20年9月30日	身近な鳥獣生息地 16ha
	194	置戸町	鹿の子沢	常呂郡置戸町に所在する国有林網走中部森林管理署23林班のうちイ小班を除く区域及び24林班の区域 [特保]常呂郡置戸町に所在する国有林網走中部森林管理署23林班のうちに、ぬ、る、れ、八、二、へ及びチの各小班の区域	平成15年3月31日 ～平成24年9月30日	森林鳥獣生息地 460ha [特保54ha]
	196	網走市	オホーツクの森	網走市に所在する国有林網走事業区117林班、120林班及び121林班並びに常呂郡端野町に所在する国有林北見事業区88林班(口小班を除く)の区域一円	昭和61年10月1日 ～平成18年9月30日	森林鳥獣生息地 1,055ha
	210	北見市	本沢	北見市字本沢705番の1に所在する北見市有林54林班1小班から6小班までの区域	平成9年10月1日 ～平成19年9月30日	身近な鳥獣生息地 88ha
	212	北見市	北見美園	北見市東町内に所在する無加川左岸(河川敷を含む。)と西十五号を起点とし、この点から西十五号を南に進み南二線との交点に至り、この点から南二線を西に進み西十九号との交点に至り、この点から西十九号を北に進み無加川右岸(河川敷を含む。)との交点に至り、この点から無加川右岸(河川敷を含む。)を西に進み西二十号との交点に至り、この点から西二十号を北に進み無加川左岸(河川敷を含む。)に至り、この点から無加川左岸(河川敷を含む。)を東に進み起点に至る区域。	平成11年10月1日 ～平成31年9月30日	身近な鳥獣生息地 293ha

銃猟禁止区域						
整理番号	市町村	銃猟禁止区域	区域	存続期間	備考	
48	置戸町	おけと湖	置戸町字常元に所在するおけと湖の水面も及びその河川敷地の区域及び置戸町字常元に所在する常呂川本流林道と道道常元中里線との交点を起点とし、この点から道道常元中里線を東に進み鹿の子林道との交点に至り、この点から鹿の子林道を西に進み平の沢林道との交点に至り、この点から平の沢林道を西に進み起点に至る区域及び置戸町字常元483-4、525-2の区域及び国有林34林班ぬ小班・ホ小班、35林班イ小班の一部・ハ小班・ニ小班の一部・ホ小班、36林班カ小班、37林班と小班・イ小班の区域	平成11年10月1日 ～平成21年9月30日	327ha	

平成17年度鳥獣保護区等位置図(別冊編)より

### 2-6-2 道指定天然記念物

温根湯エゾムラサキツツジ群落(2.5ha)が昭和32年1月29日指定されている。

昭和31年北海道大学館脇操教授の指導の基に同大学農学部植物学教室の梅沢彰氏を中心として調査が行われ、その規模は、我が国としては珍しいほどの広い面積を占めるエゾムラサキツツジの純群落であることがわかり、昭和32年北海道天然記念物に指定された。

このツツジ群落は無加川沿いの丘陵岩礫地に幅60m、延長400mの間に面積2.52haに渡って群生している。



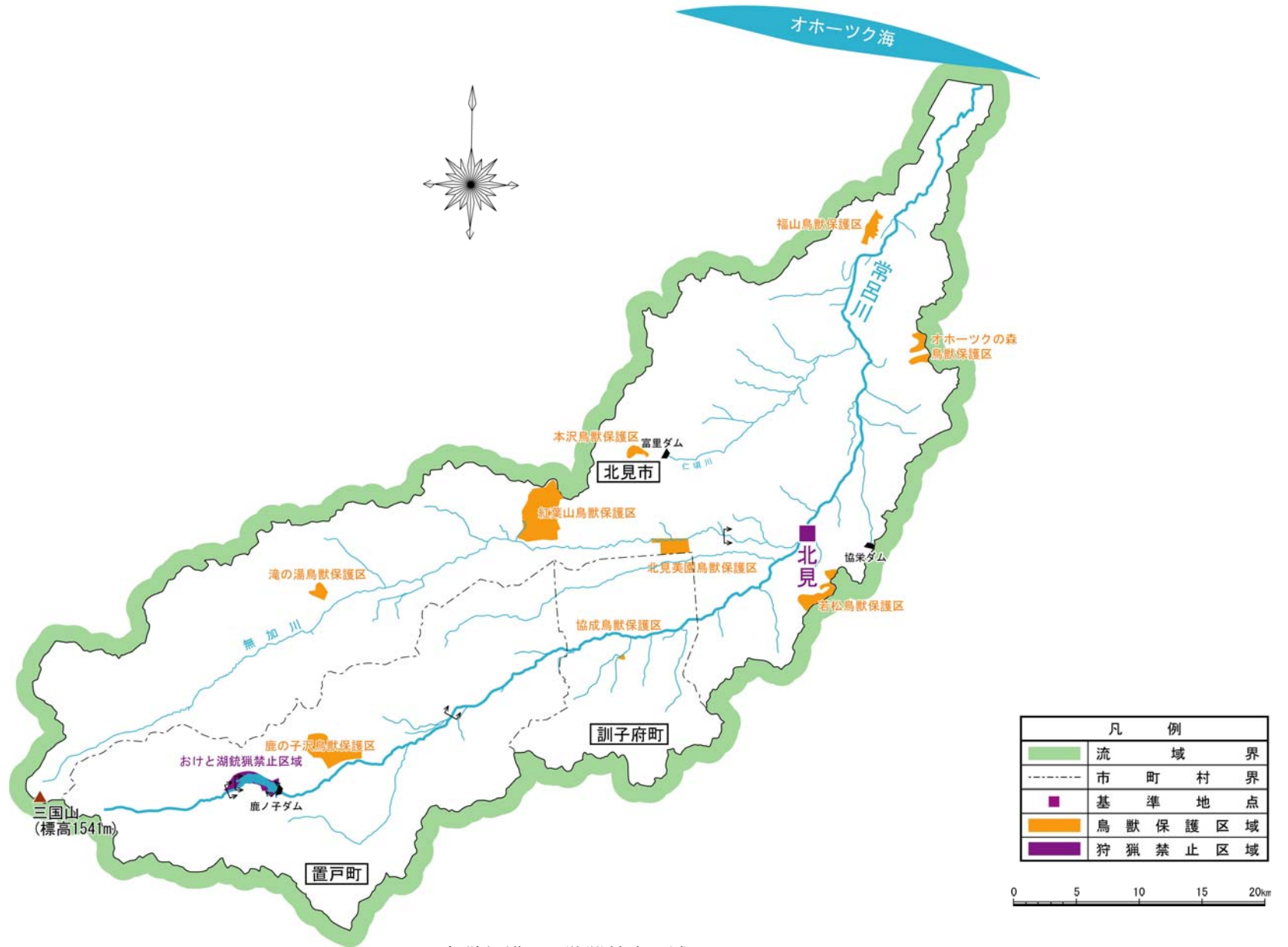


图 2-2 鳥獣保護区・狩猟禁止区域